

女子美術大学大学院 博士前期課程

平成29年度 (2017)

インタラクティブ空間演習

初回オリエンテーション

school

語源

skhole [ギリシャ] = 「意義ある余暇」

- “school” (学校) の語源
 - ギリシャ語 スコレー (skhole) 閑暇 かんか
 - 閑暇(スコレー skhole) ↔ 仕事(アスコリア askholia/ 閑暇の不在)

「閑暇とはたんに暇な時間ではない、また、仕事の疲れを癒す休息でもない。閑暇は、人間が学問や芸術に専念し、幸福を実現するための、自由で満ち足りた時間である」

加藤守通「第2講 哲学と教育」、『教育思想史』今井康雄(編) 東京:有斐閣アルマ、2009年、46頁。

自己紹介

- 石井 拓洋 (いしい たくよう) Ph.D.
takuyo.ishii@gmail.com
- 研究領域
 - 音楽文化学研究 (とくに 20世紀アメリカの音楽と文化)
 - 作曲家アーロン・コーブランド研究
 - 映画音楽研究
 - 作曲 (研究?)
- 学部 = 作曲
- 修士 = 映画音楽研究 (古典的ハリウッド映画、エイゼンシュタイン など)
- 博士 = アーロン・コーブランドの映画音楽 と 20世紀アメリカ文化の考察

メニュー

- オリエンテーション orientation (方向づけ)
 - 〈研究的視点〉を学ぶ重要性
 - 授業の具体的説明
 - 来週の連絡

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 藝術文化研究の過程

1. 研究上の〈問い〉の明確化
2. 〈問い〉にもとづく調査によるデータ収集
3. 〈研究的視点〉によってデータを分析する
4. 研究上の〈問い〉の再考（1へもどる）

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 藝術文化研究の過程

1. 研究上の〈問い〉の明確化
2. 〈問い〉にもとづく調査によるデータ収集
3. 〈研究的視点〉によってデータを分析する
4. 研究上の〈問い〉の再考（1へもどる）

藝術文化研究のための「視点」の設定の重要性

● 今日にもとめられる「研究的視点」の性格

- 西欧近代主義を相対視する視点（西洋中心、主体性、還元、進歩）
- 知の権力性に批判的な視点（「国家のイデオロギー装置」アルチュセール）
- 正史（canon）を疑う視点（歴史叙述と権力）
- 周縁への視点（中心と周縁）

※ 西欧近代主義 = 「知」、「知の権力」、「中心」、「正史」

啓蒙思想の特徴 : 西欧「近代主義」の特徴

- **西欧中心主義** eurocentrism
西洋こそが世界で最も進んだ文明であるという考え
- **要素還元主義** reductionism
物事の本質をさぐるには、本質以外の余計な要素を極力排除すべしとする考え
- **進歩主義** progressivism
新しいことは常に良いとする考え
- **人間中心主義** anthropocentrism
人間を 自然環境・生物 など 万物の中心とする考え
- **機械論** mechanism
人間は科学によって自然を制御することができるとする

藝術文化研究のための「視点」の設定

- 藝術文化研究での 基本的視座

「20世紀の知の最大の変革は、
物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

(小林康夫、船曳建夫編 『知の技法』 1994年、102頁。)

実体論 から 関係論 へ

藝術文化研究のための「視点」の設定

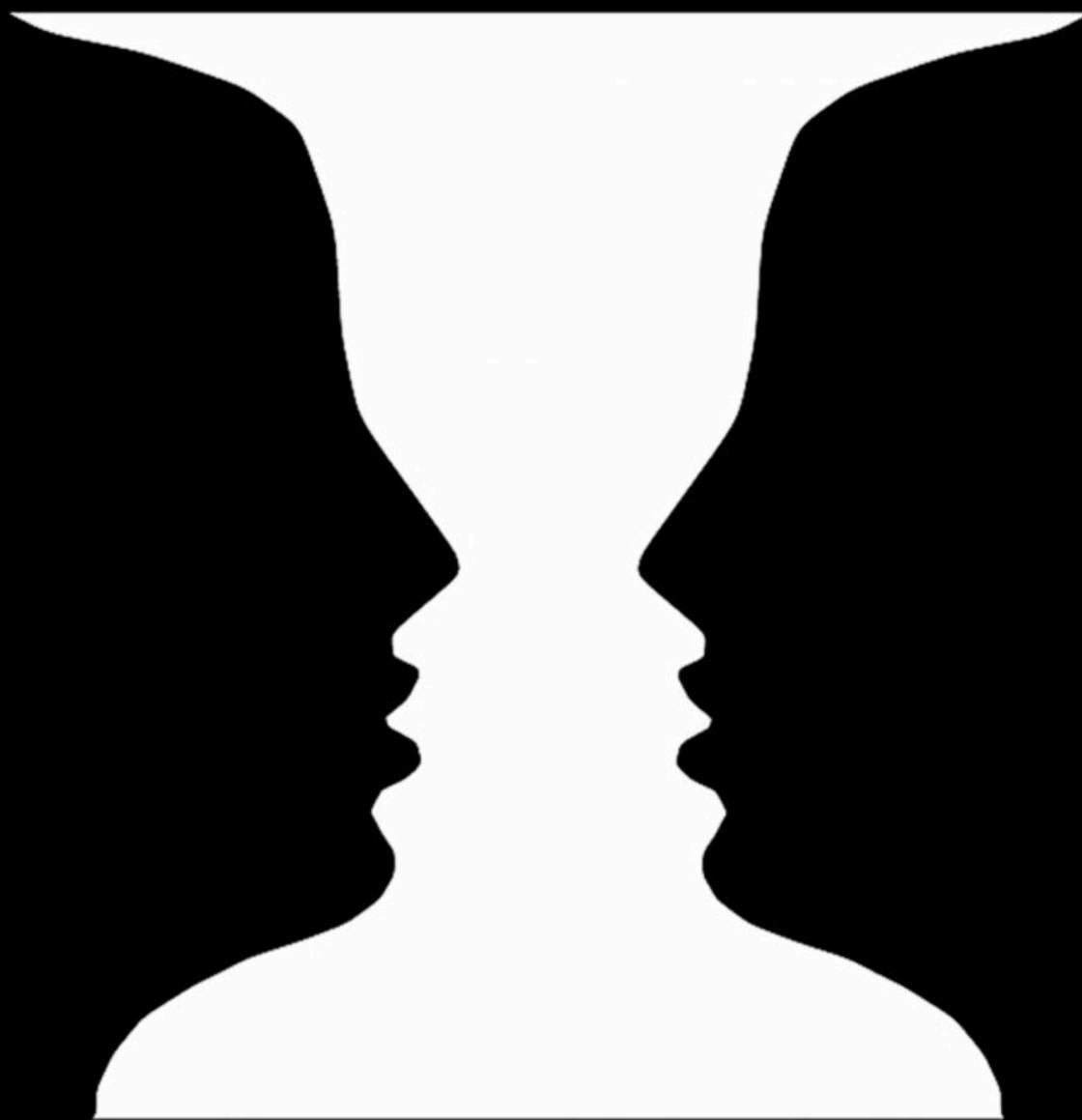
- 藝術文化研究での 基本的視座

「20世紀の知の最大の変革は、
物事を『実体』ではなく、『関係』として認識しようとすることです」

(小林康夫、船曳建夫編 『知の技法』 1994年、102頁。)

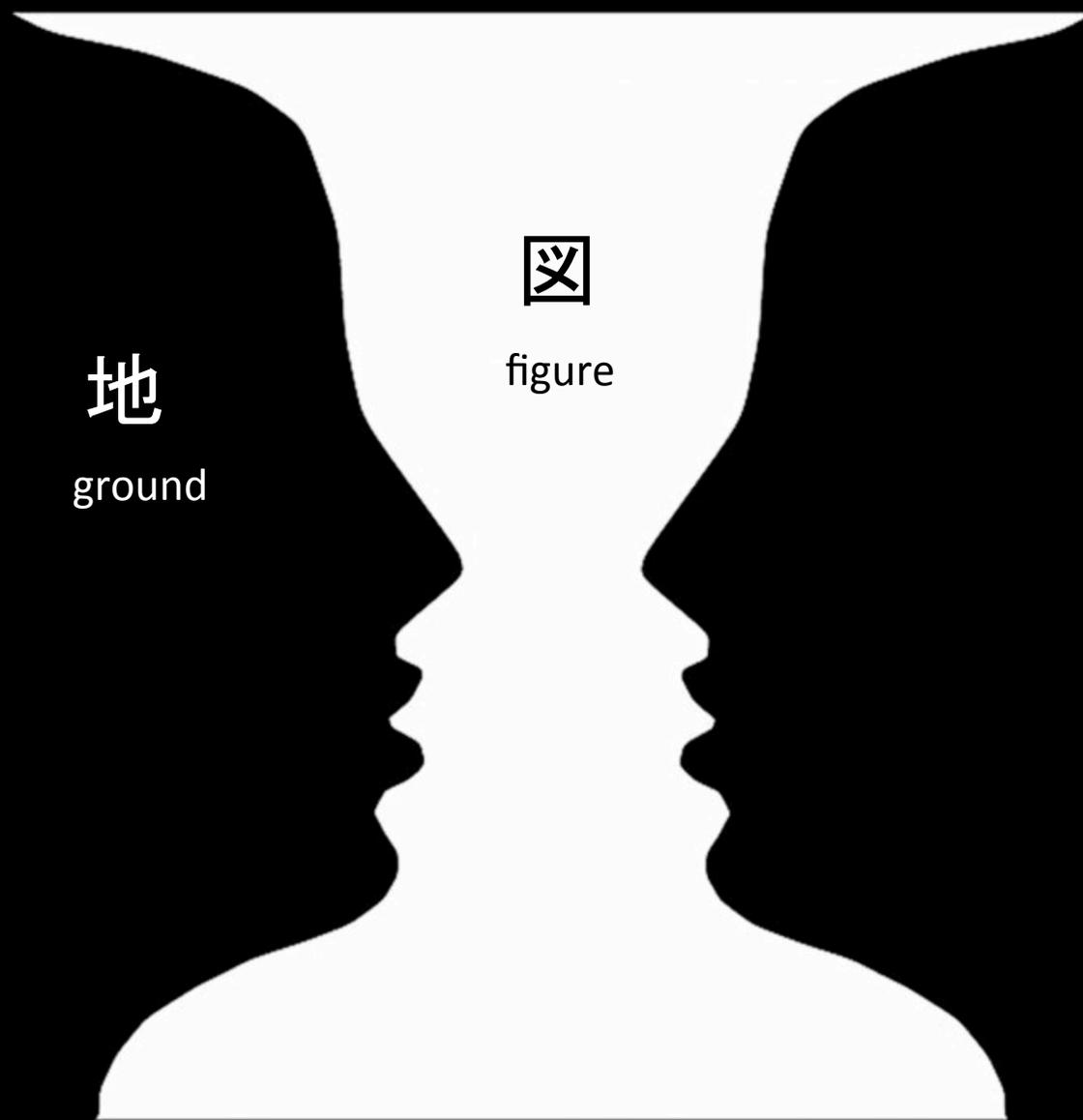
「美とは何か?」、「美の本質とは何か?」 というよりも (実体論, 本質主義, など)

「日本では、なぜ“侘・寂”が、美と認識されるのか?」 (関係論, 構築主義, など)



「ルビンの壺」(多義図形)

<http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736>



地

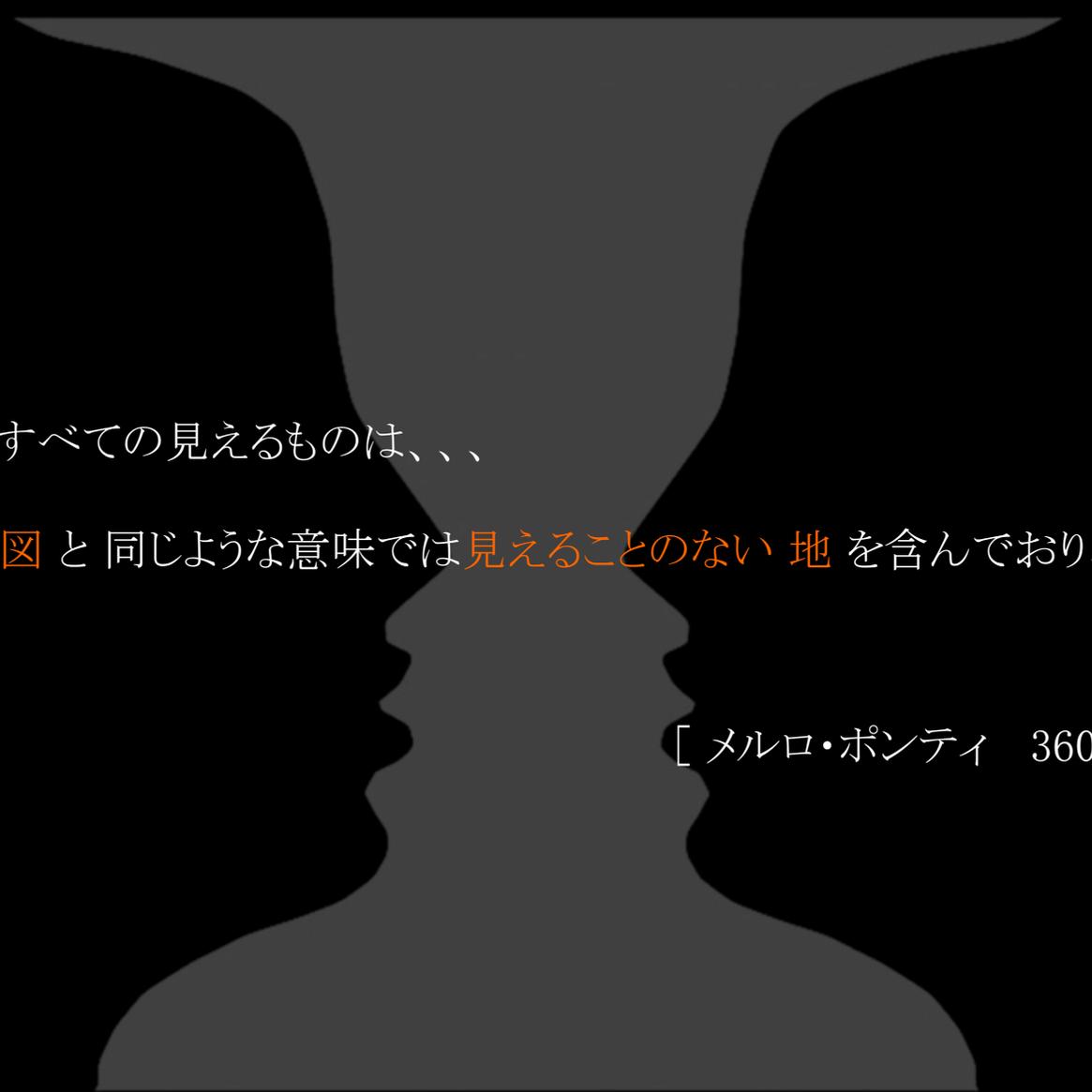
ground



figure

「ルビンの壺」(多義図形)

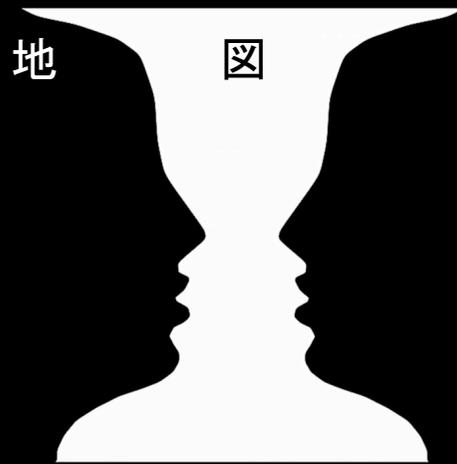
<http://d.ibtimes.co.uk/en/full/1426245/rubins-vase.jpg?w=736>

The image shows the Rubin's Vase, a classic optical illusion. It is a gray silhouette of a vase with a narrow neck and a wider body. When viewed from the front, it appears as a vase. When viewed from the back, it appears as two faces in profile, facing each other. The text is overlaid on the central part of the vase.

「すべての見えるものは、、、

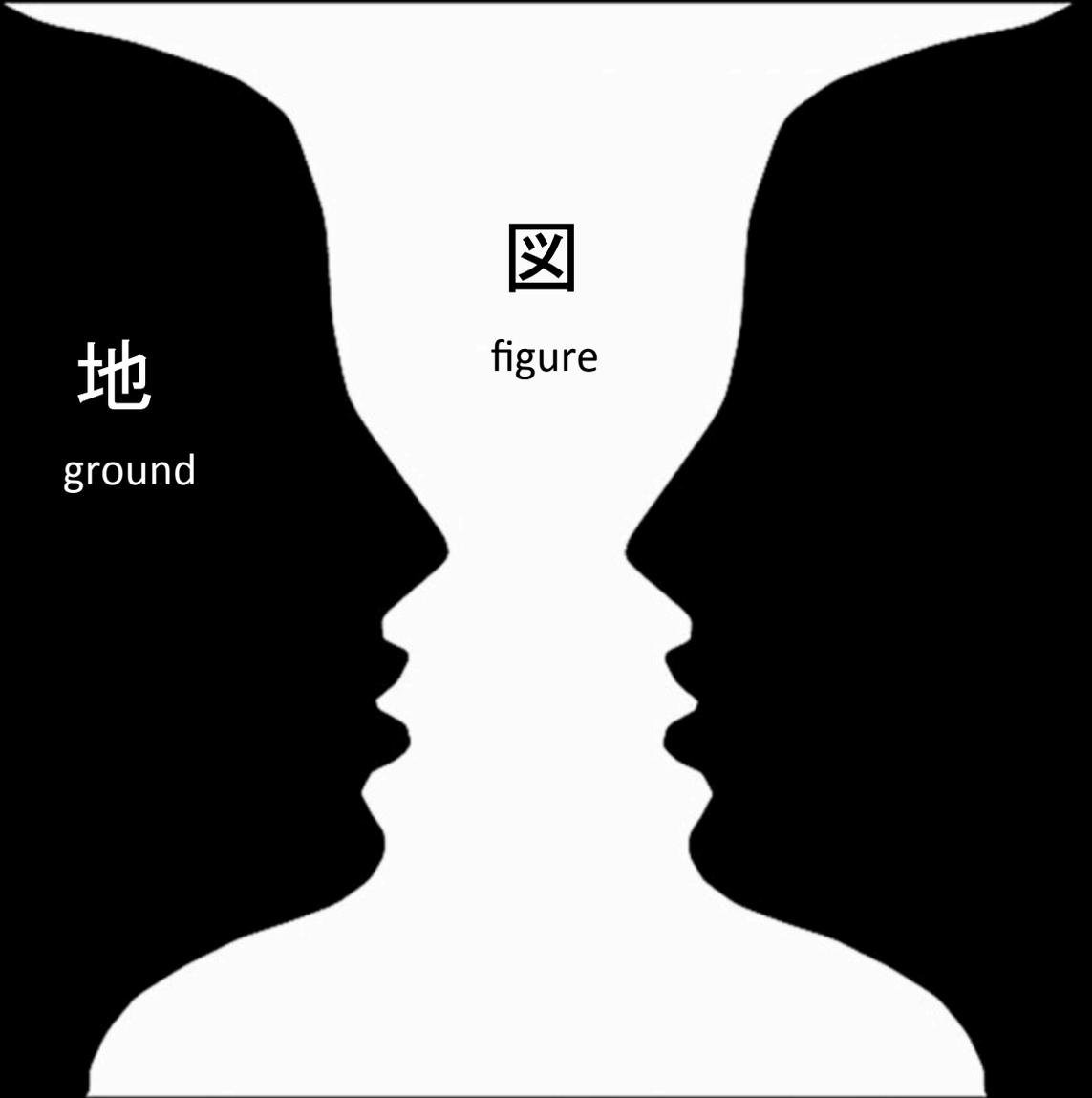
図と同じような意味では見えることのない地を含んでおり、」

[メルロ・ポンティ 360頁]



- ・ ものごとは、一方に「図」があれば、かならずもう一方に「地」がある。
- ・ 「図」と「地」が共存することによって、はじめて全体が成立する。相互依存的である。
- ・ 「図」または「地」のうち、一旦いずれかに着目すると、もう一方が見え難くなりがちだ。
- ・ 「図」と「地」には優劣はない。存在としての水準は同程度である。

Ex.) 強者と弱者、中心と周縁、役にたつものと役にたたないもの、新しいものと古いもの、順境と逆境、男と女、陽と陰、、、



地

ground

义

figure



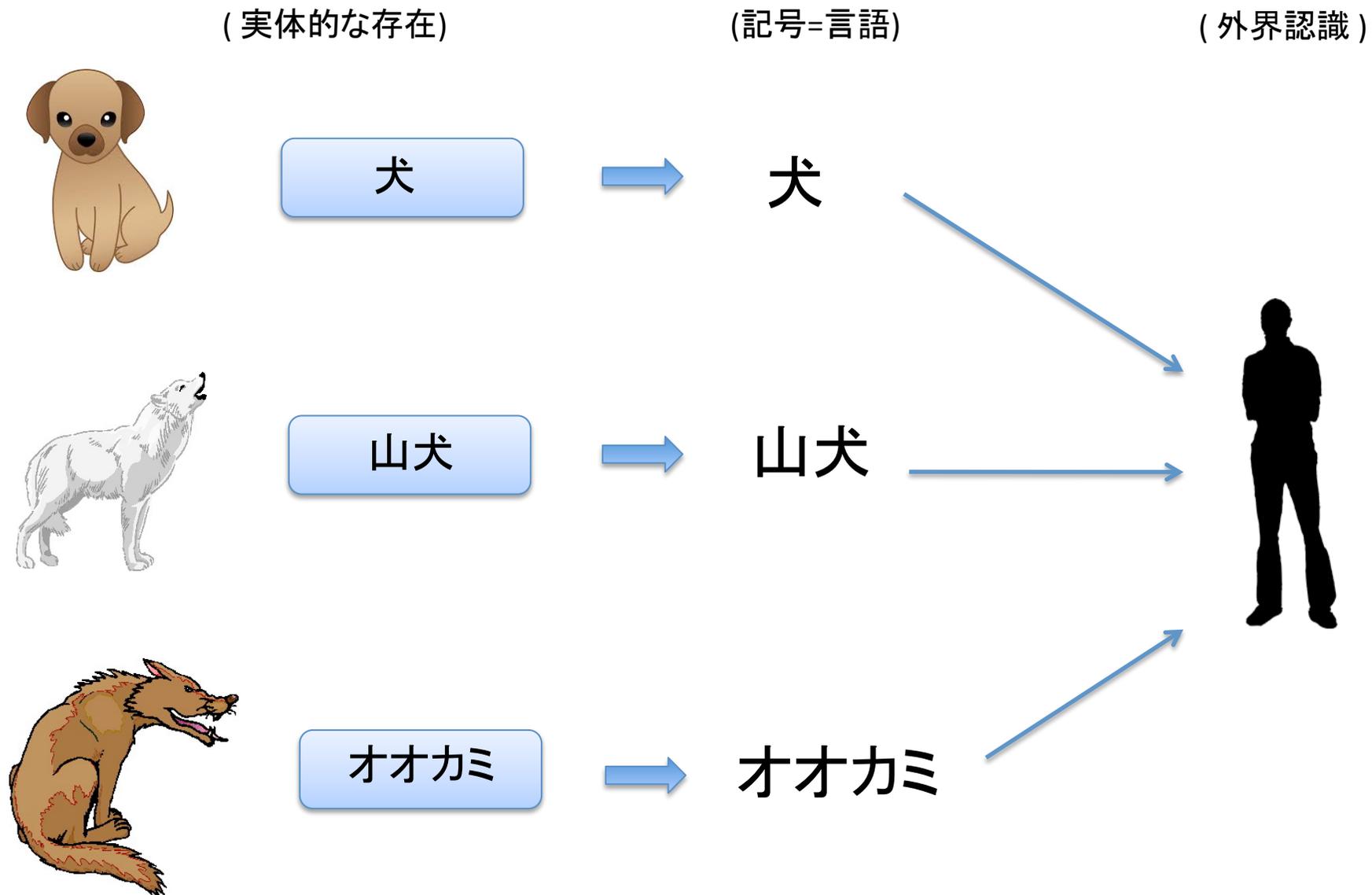
figure

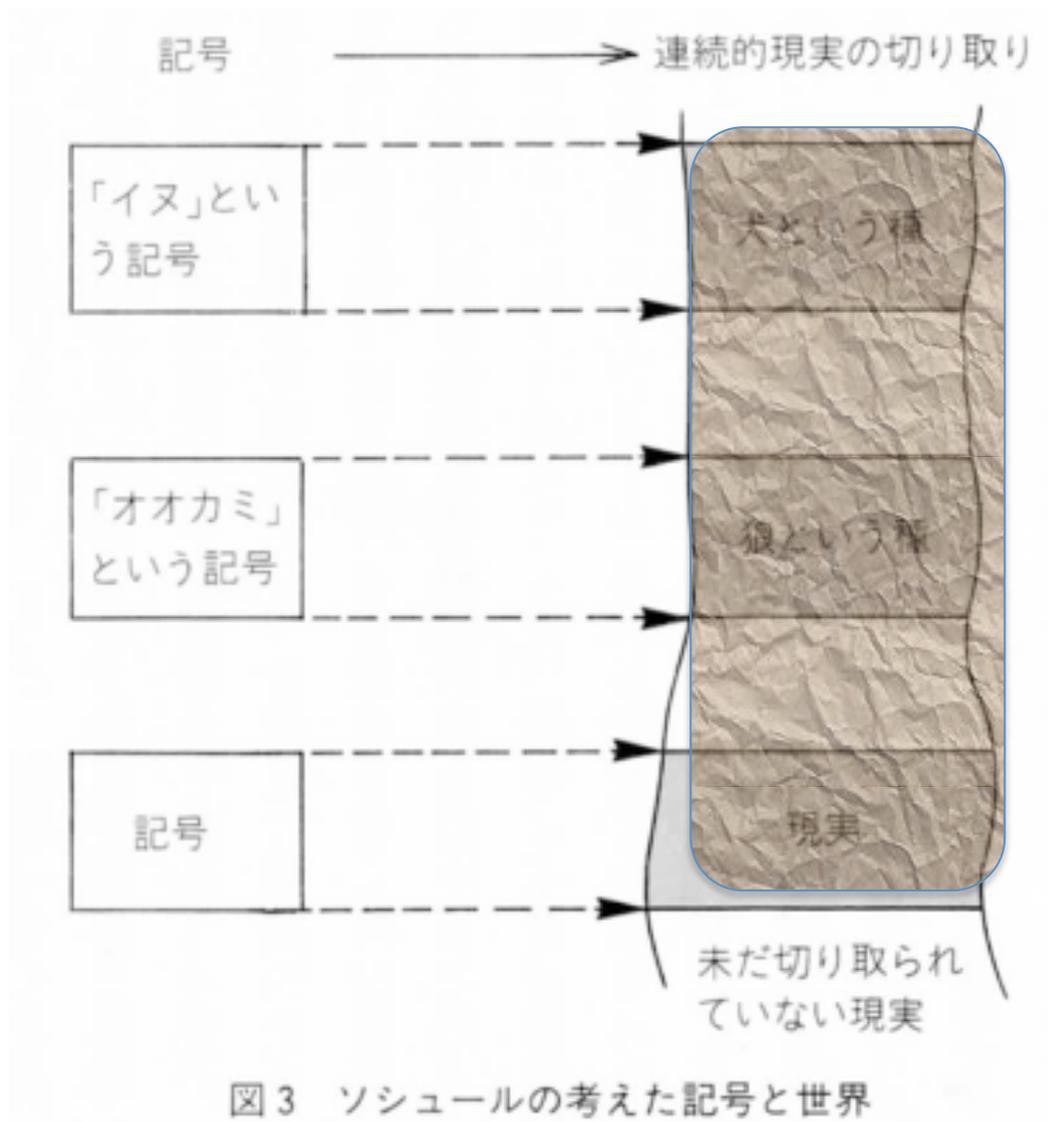
実体論から関係論への変遷を
みちびいた 20世紀の言語観

「言語名称目録観」

ソシユール以前の外界認識モデル

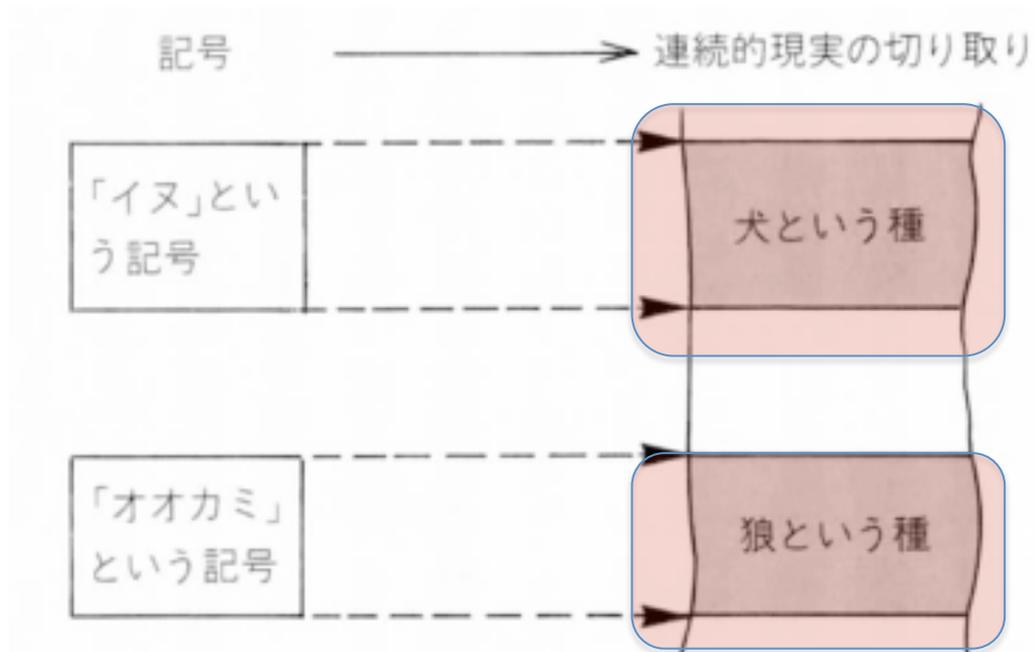
最初に物などが存在する。
人は物にラベルをつける。
それによって外界を認識する





〈イヌ〉的な生物種の 連続したつながり

本来、人間の知覚をはなれた自然には、イヌ的なものは、このような連続した種のつながりでしかない。



連続した連なりの一部を
 「犬」などの **記号を用いて**
区分することで、
 人間に
 「犬」の認識がうまれる。

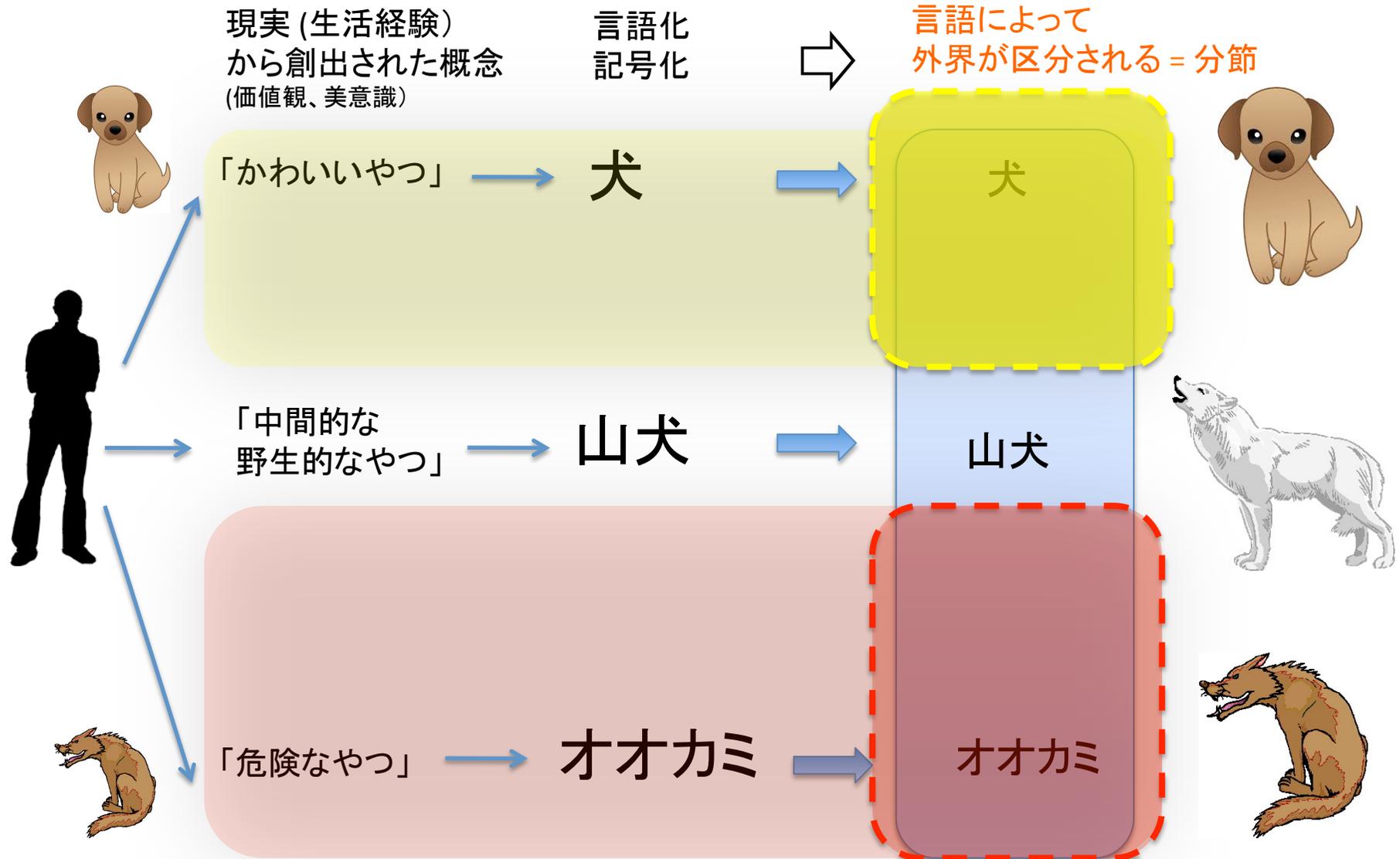
言語によって外界は区分される

図3 ソシュールの考えた記号と世界

「言語論的転回」

ソシュール以後の外界認識モデル，記号論の視点

人の価値観に基づいて
本来は〈区分別のない〉外界を
記号を用いて〈区分別する〉。
そして外界を認識する。



音の差異

概念の差異

「いす」×

「いと」×

「きぬ」×

「いぬ」

「いに」×

「しぬ」×



これではなく



これ

「シニフィエ」
記号内容



これでもなく

「シニフィアン」
記号表現

言葉においては
「音」も「概念」も 他との関係による「差異」によってしか示すことができない

「言語とは差異の体系である」

具体的な授業説明、ほか

- シラバス参照
- 講義資料webページ
- 来週の連絡、連絡先確認 など